Osaka University Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 韓国の小・中・高校生の喫煙状況とその関連要因に関する研究 |
| Author(s) | 李, 福植 |
| Citation | 大阪大学, 1996, 博士論文 |
| Version Type | |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/39860 |
| rights | |
| Note | 著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、<a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。 |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【39】

| | |
|---|---|
| 氏　　名 | 李（り）　福（ほっく）　植（しく） |
| 博士の専攻分野の名称 | 博　士（医　学） |
| 学　位　記　番　号 | 第　12388　号 |
| 学位授与年月日 | 平成8年3月25日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第1項該当<br>医学研究科社会系専攻 |
| 学　位　論　文　名 | **韓国の小・中・高校生の喫煙状況とその関連要因に関する研究** |
| 論　文　審　査　委　員 | （主査）<br>教　授　多田羅浩三<br>（副査）<br>教　授　森本　兼曩　　教　授　若杉　長英 |

## 論　文　内　容　の　要　旨

【目的】

青少年の効果的な喫煙防止プログラムを開発するためには小学・中学・高等学校の児童生徒の喫煙の実態を明らかにすることが必要である。喫煙は，周囲の人々の喫煙から影響を受けるほか，飲酒，食生活，保健知識などとも関連していると予想される。本研究は，韓国の青少年の喫煙状況およびその関連要因を明らかにすることを目的として実施された。

【方法ならびに成績】

韓国のソウル，釜山，大邱，大田，光州の市と，迎一などの5郡の小・中・高校在学中の小学4年から高校2年までの児童生徒を調査対象とし，小学生用，中高校生用の2種類の調査票をもとに，各学年5～6クラスの協力を得て，1992年6，7月に調査を実施した。対象者数は2,477名で，そのうち2,403名（男子1,130名，女子1,273名）から回答が得られた（回答率97%）。使用した調査票はＪＫＹＢ（Japan Know Your Body study）調査票を韓国語に翻訳したものである。本人の喫煙や飲酒等の行動を質問することを考慮し，調査票は本人自記式で無記名とし，調査票を入れる封筒を個々の回答者に配布して記入後に回答者自身が封筒に入れ，封をするようにして秘密の保持に配慮した。

喫煙経験者の割合は，学年が上になるほど高くなる傾向を示し，男子の場合，小学4年で17.4%，高校2年では65.4%。女子では，小学4年5.2%から高校2年の24.9%へと漸増していた。1か月以内に喫煙した者は，男子では中学1年までは5%以下であり，中学2年で10%を超え，高校2年では39.0%であった。女子ではいずれの学年も10%以下であった。親，きょうだい，友人の喫煙の有無別に喫煙経験をみると，小学・中学・高校の男女とも多くの場合，周囲の人々が喫煙していると本人の喫煙経験の割合も高かった。とくに友人の喫煙の有無との喫煙経験との関連が強かった。飲酒経験の有無と喫煙経験の有無との関係では，中学・高校の男女いずれにおいても有意の強い関連が認められた。タバコの害をふくむ健康に関する知識についての6項目の質問と喫煙経験の有無との関係を調べると，喫煙によってかかりやすくなる病気の知識については，中学・高校の男女いずれにおいても不正解群が喫煙経験者の割合が高かった。しかし，他の項目については中学男子では，正解群の方が喫煙経験者の割合が高かったのに対し，中学女子，高校生の男女では，正解群の方が喫煙経験者の割合は低い場合が多かった。喫煙に対する態度についての質問（「おとなになったらタバコを吸いたいと思いますか」「おとながあなたのそばでタバコを吸ったらいやだと思いますか」「友人からタバコをすすめられたら，ことわることができると思いますか」）は，中学・高校の男女いずれにおい

ても喫煙経験と関連していた。食生活についての質問4項目と喫煙経験の有無との関係を調べると，朝食をたべない群，健康的な食生活をしていないと答えた群，コーラおよびインスタントラーメンそれぞれの摂取頻度が高い群では，中学・高校の男女のいずれにおいても，喫煙経験者の割合が高い傾向がみられた。

親，きょうだい，友人の喫煙，飲酒経験，健康に関する知識，喫煙に対する態度，食生活の状況のいずれもが喫煙経験となんらかの関連を示すことが明らかになったので，これら7項目についてスコアを与えて説明変数とし，中学，高校の男女別に，喫煙経験の有無を目的変数とする判別分析を行った（Wilks Λ値が最小になる変数を選択。選択基準F値1.0以上)。中学，高校の男女のいずれにおいても，喫煙経験の有無と関連が強い上位3位までの変数は，友人の喫煙，喫煙に対する態度，飲酒経験であった。健康に関する知識は，中学女子と高校男子では非喫煙と関連していたが，中学男子では逆に喫煙経験があることと関連していた。また，中学男子と高校の男女において，食生活の状況が判別分析において選択された。中学男子ではきょうだいの喫煙が，高校男子では親の喫煙が選択された。

【総括】

韓国の小中高生2,403名に対し，喫煙状況と関連要因を調査した。男子では喫煙経験者は小学5年で20%を超えた。中学3年頃から1か月以内喫煙者の割合が増加し高校2年で39%に達した。女子の喫煙者の割合は男子ほど高くなく高校生では男女差が強かった。これらの点は最近日本で行われた青少年の喫煙調査結果と近似している。喫煙経験の有無を目的変数とした判別分析の結果，中学，高校の男女いずれにおいても，友人の喫煙，喫煙に対する態度，飲酒経験が，喫煙経験と関連が強い上位3位までの変数として選択された。食生活の状況，親やきょうだいの喫煙も喫煙経験との関連が認められた。喫煙防止プログラム開発の課題として，喫煙防止教育を小学校の低学年から開始すること，友人や家庭の同居者の喫煙の影響に対する抵抗力を強めること，タバコの有害性の知識の伝達だけでなく喫煙に対する批判的態度や喫煙の勧誘を断ることのできる技術を促進すること，飲酒や不健康な食生活などを含め健康へのリスクを総合的に低下させていくことなどが重要であろう。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は，韓国の青少年の喫煙状況およびその関連要因を明らかにすることを目的として実施した。韓国の小・中・高校在学中の小学4年から高校2年までの児童生徒の2,477名を調査対象とし，1992年6，7月に実施し，回答は2,403名から得られた。使用した調査票はＪＫＹＢ（Japan Know Your Body study）調査票を韓国語に翻訳したものである。

男子では喫煙経験者は小学5年で20%を超えた。1か月以内喫煙者の割合は中学3年頃から増加し，高校2年で39%に達した。喫煙経験の有無を目的変数とした判別分析の結果，友人の喫煙，喫煙に対する態度，飲酒経験が，喫煙経験と関連が強い上位3位までの変数として選択された。韓国の小中高生の喫煙状況は，最近日本で行われた青少年の喫煙調査結果と類似している。

喫煙防止プログラム開発の課題として，喫煙防止教育を小学校の低学年から開始することだけでなく，友人や家庭の同居者の喫煙に対する働きかけや，飲酒や不健康な食生活などを含め，健康へのリスクを総合的に低下させていくことなどが重要な課題であることを示した点において新たな知見を示しており，学位に値すると考える。